バカとテストと転生人

咲花

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
バカとテストと転生人

【Ｎコード】
Ｎ６３９６Ｘ

【作者名】
咲花

【あらすじ】
主人公、凛は神の暇つぶしによって間違って死んでしまい転生させてくれるという神の言葉に、選んだ世界は・・・？

俺と転生と始まりのお話（前書き）

どーも、咲花です

この小説は私の処女作ですので

良くわからないところ、誤字脱字の部分をどんどん指摘してください

お願いしますｍ（＿＿）ｍ

俺と転生と始まりのお話

ーとある空間ー

「んあ？、、、ここ何処だよ？」
「気がついたようじゃな」
「うわっ！？」

ドコッ、ドガッ、バキッ

「お、お主、なかなか良い腕しとるな」
いやいや、それほどでも
「まぁ、お主に謝らなきゃいけないことがあるのじゃ」
「？、何でだ？」
ここは俺が謝るんじゃないのか？
実際ボコボコにしたし
「、、、お主、記憶がないのかの？」
「む、確かに、少し頭が痛いな」
まるで殴られたような・・・・・・・ まさか
「爺ぃ、拉致とは良い度胸だな」
「待て待て！違う、儂が言いたいのはな、」

「儂の手違いでお主を殺してしまったことじゃ」

は？
何を言ってんだこの爺
俺はこの通り物に触れるし、ピンピンしてる
「信じられないか？最初は皆そういう」
・・・・・ 理解が追いつかない
まず整理しよう

「それじゃ、あんたは俗に言う神様って奴なんだな？」
「そうじゃ」
「んで俺は手違いで死んだと？」
「まぁそうなるの」
なら俺は本当に死んだのか？
・・・・・ 信じたくはないが
「まぁこちらにも非はある、好きな世界に転生させてやろう」
「転生だと？」
「ああ、好きな世界に転生させてやろう」
「うーん。」
好きな世界か、、、
どうせなら
「ならバカテスの世界に行けるか？」
「もちろんじゃ、儂を誰だと心得ておる」
「なら早速頼む」

「ああ、待て待て、お前、スキルはどうする」
「スキル？」
スキルって超能力とかか？
それなら、、、
「瞬間移動と投影と後は念力くらいかな？」
「・・・貴様は厨二病者か」
ほっとけ
「まぁ良いそれでは行くからの！」

そうして俺はバカテスの世界に転生することになった

俺と転生と始まりのお話（後書き）

とりあえず、無事一話が書けましたｗ

指摘お願いしますｏｒｚ

バカと出会いと始まりの宴（前書き）

今回は最初のクラス分けの話です

激短ですw

バカと出会いと始まりの宴

「おい、遅刻だぞ！」
校門から暑苦しくて野太い声が聞こえてきた
「おはようございます、鉄j．．．．西村先生」
「今鉄人と言ったように聞こえたのだが？」
チッ、、、鋭い
「やだな～、気のせいですよw」
「そうか、っと忘れていた、振り分け試験の結果だが．．．．」
鉄人の持っていた紙を奪い取りビリビリに破いた
「結果は知ってますよ、だって全て白紙ですから」
「俺は府に落ちないのだが．．．．．お前の実力なら．．．．．」
「俺はこの学校に勉強に来た訳じゃありません」
きっぱりと言い放ってやった
「？？ならどうして入学したんだ？」
どうして？．．．決まってる

「俺はこの学校に戦争しに来たんです」

そう言って俺は校舎に駆け出した

バカと出会いと始まりの宴（後書き）

次はオリキャラの説明になる予定です

・・・・・・あくまで予定だよ？

オリキャラ紹介（前書き）

凛の紹介文です

オリキャラ紹介

遅くなりました、それではプロフィールからスタート

桜我　凛
１７才　享年１７才
交通事故により死亡、そして転生
顔つきは口調に似合わず男の娘のような顔をしている

召喚獣

武器　ギター
装備　ガクラン　長くて青いマフラー
平均点数４００点（ただし本気を出したときのみ
腕輪＆技

音玉　基本攻撃、点消費は無し
値我目六九　技、一人の相手に高速の音玉を５個当てる、１０点消費
眼鏡六九　技、周りにたくさんの音玉を放つ　２５点消費
真四角世界　技、巨大な音玉を出して爆発させる、５０点消費

紙飛行機　腕輪、暫く飛ぶことができ、能力があがる

ついでにオリキャラは後２人出ます、
どうぞお楽しみに

オリキャラ紹介（後書き）

後二人は凛と兄弟設定です

お楽しみに～

バカと仲間と始まりの出会い（前書き）

更新遅れてましたすみませんm（＿＿）m

おわびに今回長めです

バカと仲間と始まりの出会い

さて、まだ早かった気はするけど、まぁクラスメートに挨拶しとくか

教室のドアを開けてみると、
ライオンのような赤いたてがみの男が居た、
ってあれ？見た事あるような．．．
「おう、早いな」
「何だ、雄二か、お前こそどうしたんだよ？」
こいつは元々不良だったし、
いつも遅れ気味で来る癖に、
「いや、俺はこのクラスの代表だからな、王様のつもりになって見下していただけだw」

、、、うん、コイツはもうダメだな
「それより、お前はなぜここに居るんだ？」
雄二が訊ねてきた
「いや？別にこっちのが楽しそうだからじゃダメか？」
Aクラスなんかに居たら息が詰まっちまうよ
そんな事考えていると教室のドアが開き
「すみません！遅れちゃいました★」
「「黙れ、ゴミ虫が」」
明久のバカ面も見慣れたもんだな、俺
「って凛と雄二じゃないか、どうしてそこにいるのさ？」
明久はやはりFクラスだったか、まぁ予想通りだな
「決まってんだろ？俺がこのクラスの代表だからな」
と言って雄二と何故か明久がニヤリと笑った
まぁ考えつくけどね
「これでこのクラスの全員が俺の兵隊だな」

雄二がふんぞり返って床に座ってる奴等を見下す
見下すのもしかたない、何故なら

設備がちゃぶ台だからだ、、、

「えーと、ちょっと通してもらえますか？」
後ろからおっさんの声がした
振り返ってみるといかにも冴えないおっさんが居た
「ＨＲを始めます、席についてください」
ああ、このおっさん、うちの担任なのか
「はいわかりました」
「うーっす」
「へいへい」
三者三様の返事をしてそこらの床に座る
にしても畳は足が痛くなりそうだ
「えー、おはようございます。二年Ｆクラス担任の福原です、よろしくお願いします」
さすがＦクラス、チョークすらないのか
「皆さん、ちゃぶ台と座布団は支給されていますか？」
それにしても酷い設備だ
ちゃぶ台はボロボロ、座布団はほぼ綿が抜けている
実際にクラスの奴等が不備を申し出ても、
我慢してくださいか、自力で直せだからなぁ
「では自己紹介を始めましょう」
先生の言葉で一人の生徒が立ち上がる
「木下秀吉じゃ、演劇部にしょぞくしておる」

あれは秀吉か、やはりパッと見女子だよなぁ
「・・・土屋康太」
彼奴はムッツリスケベで有名な男、
運動神経良いのに帰宅部だ、
まぁ理由はわかるがな
そんなことを考えていると
「趣味は吉井明久を殴ることです☆」
そんな声が聞こえた
あれは確か島田だっけな？
そこそこ可愛いのに、何かが足りないんだよなぁ
そして視界の隅で震えている明久が笑える
っと次は明久の番か、どんな内容か楽しみだ
「えぇと、吉井明久です、気軽にダーリンて呼んでね♪」

「「「ダァァーーリィーーン」」」

おえ、酷い吐き気がしてきた
明久も苦笑いしながら、吐き気を堪えている
吐き気を直すため、外に出ようとしたとき
ピンク色の髪をした女の子がFクラスへ入っていった

あれは、姫路だっけ？
そう思いながら俺はトイレへと駆け込んだ

バカと仲間と始まりの出会い（後書き）

次回は、Ｅクラスに宣戦布告する所までやる予定です

バカと仲間と戦いへ（前書き）

すみません！！！色々あって更新遅れました！！！
これからがんばります！！

そういえばアニメ終わってバカテスの人気が冷めちゃいましたね

俺はバカテスが終わったなんて認めんぞ！！w
小説もバカテス2てきな感じでやってくれるに違いない！！
そう信じたい！！

バカと仲間と戦いへ

トイレから帰ってくると明久と雄二が話をしていた。
何だろ？遊びの予定か？と思いながら、
聞き耳を立ててみると
「提案・・・・・・試召戦争・・・・・みない？」
なるほど、明久は試召戦争を起こす気か、
試召戦争とは、この学校の特別な決まりみたいなもので
科学とオカルトが巧い具合になって偶然出来たシステムらしい
確かにあの設備だと、戦争を起こす理由にはなるが、
そんな理由で明久が動くわけがない
そう考えていると、
「姫路の為、か？」
「ど、どうしてそれを！？」
、、、なるほどな。
ついニヤリと口角をあげてしまった
確かにあいつにあの設備は辛すぎる
だから明久は戦争を起こそうとしたのか、
俺は物陰から出て、二人の側へと寄る
「おいおい、俺も混ぜろよ」
「あ、凛」
「ちょうど良かった、実はな、」
「戦争だろ？聞こえてんだよ」
「そうか、なら話は早いな」
雄二がそこで言葉を切った
俺が言う台詞は一つしかない
「やるならとことんやろうぜ？」
「やった！！協力してくれるの！？」
「ああ、」

、、、どーでも良いけど、コイツが喜んでるとなんか腹立つ
「んじゃ、先生も来たし、教室入るぞ」
そう促されて俺と明久は教室内に入った

「さて自己紹介の続きをお願いします」
「えー、須川亮です、趣味は、、、、」
何も起こらず、淡々と自己紹介が続き、雄二の番になった
「坂本君、君が自己紹介の最後の一人ですよ」
「了解」
先生に言われ、ゆっくりと教壇に向かう様は
普段とは違い、とても代表らしい貫禄が出ているような気がした
「坂本君は、このクラスの代表ですよね？」
先生に聞かれ、うなずく雄二
別に代表だからといってたかだかFクラスだから下手したら恥になりかねない所だが、
それでも雄二は自信に満ちた表情をしていた
「Fクラス代表の坂本だ、俺のことは代表なり、坂本なり好きに呼んでくれ」
さすが馬鹿の集まりFクラス、誰も話を聞いちゃいねぇ
「さて、みんなに一つ聞きたい」
ゆっくりと全員の目を見るように告げる雄二
間の取り方が巧いから全員の視線が雄二の目に向けられるようになった
そして雄二の視線は、教室の各所に向けられた
カビ臭い教室
古く汚れた座布団
薄汚れた卓袱台
つられて皆雄二の視線を追って、備品を眺めていく
「Aクラスは冷暖房完備らしいが・・・・・」
一呼吸おいてから告げる

「ーーー不満は無いか？」

「「「「「大アリじゃぁぁぁぁ！！！！！！」」」」」

耳をつんざくような2年F組生徒の叫び

「だろう？俺もこの現状には大いに不満だ、代表として問題意識を抱いている」

［そうだそうだ！！］

［いくら学費が安いからと言ってこれは酷すぎる！！］

［大体、Aクラスも同じ学費だろ！？理不尽だ！！］

つぎつぎと怒号のように不満の声があがる

俺もこの設備は酷いと思う

「みんなの意見はもっともだ、そこで」

多分この反応に満足したのか、不敵な笑みを浮かべ

「これは代表としての提案だが、、、」

クラスの仲間に自慢の野生味たっぷりな八重歯を見せ

「、、、、Fクラスは Aクラスに戦争を仕掛けようと思う」

雄二はそう言った

試召戦争の引き金を引いたのだ

バカと仲間と戦いへ（後書き）

次回は宣戦布告あたりまで進める予定です

感想、指摘お願いします

バカテスト～英語編～

問　以下の英文を訳しなさい

Ｔｈｉｓ　ｉｓ　ｔｈａ　ｂｏｏｋｈｅｌｆ　ｔｈａｔ　ｍｙ　ｇｒａｎｄｍｏｔｈａｒ　ｈａｄ　ｕｓｅｄ　ｒｅｇｕｒａｒｌｙ

姫路瑞希の答え
これは私の祖母が愛用していた本棚です

教師のコメント
正解です、しっかり勉強していますね

土屋康太の答え
これは

教師のコメント
訳せたのはＴｈｉｓだけですか

吉井明久の答え
☆●◆▽♪※

教師のコメント
出来れば地球の言語で。

桜我凛の答え
これは私の婆が愛用していた本棚ＤＥＡＴＨ

教師のコメント

あってますが、ちゃんと書きましょう

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6396x/

バカとテストと転生人

2011年10月28日08時04分発行